

人事行政の運営等の状況の公表

海南市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例(平成17年条例第181号)に基づき、海南市の人事行政の運営等の状況を次のとおり公表します。

平成24年3月30日

海南市長 神 出 政 巳

I 人事行政の運営の状況

1. 職員の任免及び職員数に関する状況

(1) 職員の採用状況(平成22年4月2日～平成23年4月1日)

職 種	採用者数		
	男	女	計
一般事務	6人	1人	7人
建築技術	1人	0人	1人
土木技術	1人	0人	1人
保育士	0人	4人	4人
幼稚園教諭	0人	1人	1人
保健師	0人	3人	3人
消防職員	2人	0人	2人
高等学校教諭	1人	0人	1人
病院医師	1人	1人	2人
病院看護師	2人	15人	17人
病院技師	0人	1人	1人
病院事務	2人	0人	2人
合計	16人	26人	42人

(2) 再任用職員の採用状況(平成23年4月1日現在)

職 種	職員数	
	職員数	うち 任期更新
技能労務職	1人	0人
病院看護師	1人	1人
合計	2人	1人

(3) 職員の退職等の状況(平成22年度)

区分	人数
定年退職	34人
勸奨退職	13人
自己都合退職	6人
人事交流等による退職	1人
育休任期付職員任期満了	2人
再任用任期満了	1人
合計	57人

(4) 部門別職員数の状況(各年4月1日現在)

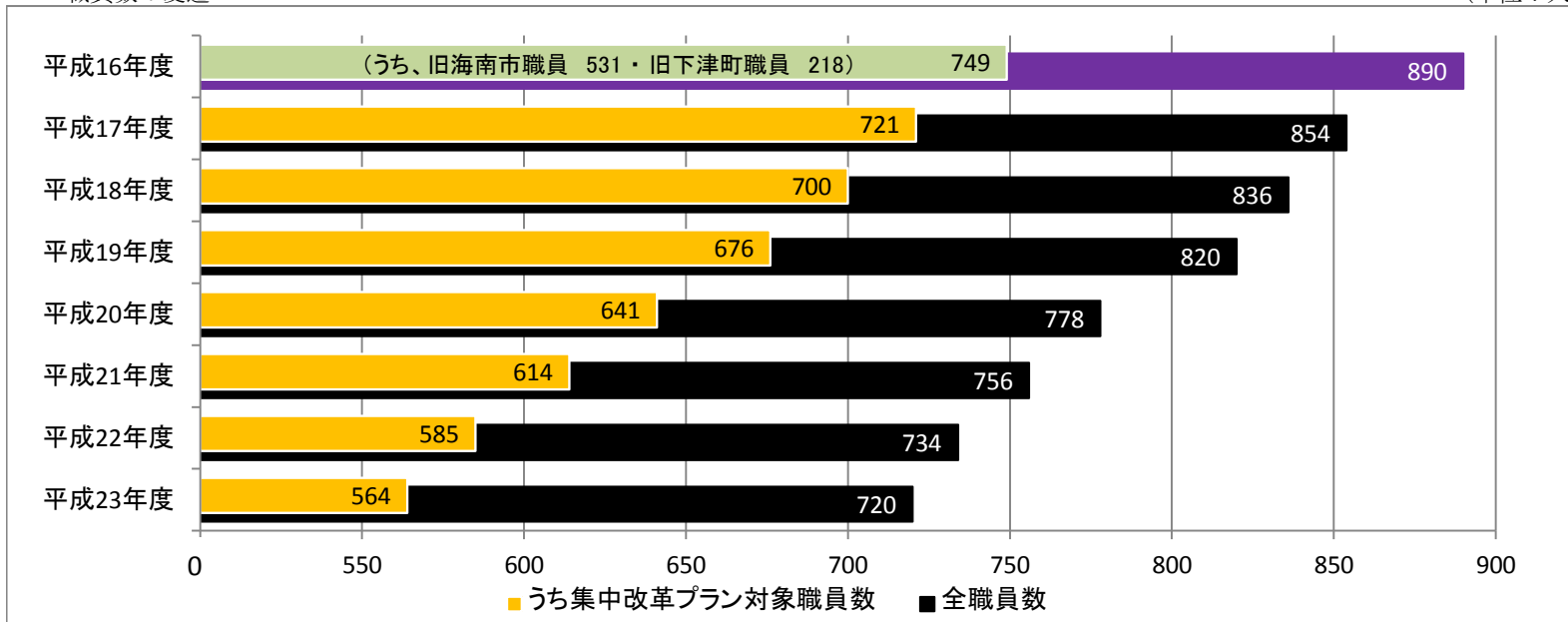
区 分			職 員 数		対前年 増減数	主な増減理由
			平成23年	平成22年		
部 門	普 通 会 計 部 門	議会	6	6	0	組織の見直し、事務の効率化 組織の見直し、事務の効率化 組織の見直し、収集作業員の臨時職員化 農業一般部門の充実 組織の見直し、事務の効率化 退職者不補充、事務の効率化
		総務企画	87	91	-4	
		税務	22	24	-2	
		民生	88	88	0	
		衛生	39	43	-4	
		労働	0	0	0	
		農林水産	21	20	1	
		商工	7	8	-1	
		土木	46	49	-3	
	計	316	329	-13		
教育部門	100	104	-4	退職者不補充、組織の見直し		
消防部門	92	92	0			
小 計	508	525	-17			
等 業 公 部 会 営 門 計 企	病院	152	148	4	医療看護業務の充実 退職者不補充	
	水道	25	26	-1		
	その他	35	35	0		
	小 計	212	209	3		
合 計		720	734	-14		
		[893]	[893]	[0]		

[]内は、条例定数の合計です。

(注)職員数は、地方公共団体定員管理調査に基づく人数であり、教育長、退職者等を含み、市長、副市長、病院事業管理者及び臨時職員等を除きます。

(5) 定員管理の適正化
職員数の変遷

(単位：人)



※病院事業の医療関係職員（医師、医療技術職、看護師等）・独自採用職員及び育休任期付職員は、集中改革プランの対象とはなっていません。
※平成16年度の数値は、合併前の旧海南市・旧下津町の合計職員数です。

集中改革プランに基づく徹底した取り組みにより、合併前（平成16年度）と比較すると、集中改革プラン対象職員数は、平成23年度で185人（削減率24.7%）の削減となり、さらに平成24年度では200人（削減率26.7%）の削減を見込んでいます。既に一般行政職では類似団体の平均値以下まで適正化が進んでいますが、今後も業務や組織の見直しを図り、さらなる定員の適正化に努めます。

2. 職員の給与の状況

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

(単位：千円)

区分	住民基本台帳人口 (平成23年3月31日現在)	歳出額 (A)	実質収支	人件費 (B)	人件費率 (B/A)	(参考) 平成21年度の人件費率
平成22年度	56,229 人	22,486,328	329,793	4,480,237	19.9%	19.2%

人件費には職員の給料、退職手当、共済費の他、市長等の特別職の給与、議員その他各種委員の報酬等を含んでいます。

普通会計とは、市の全ての会計から国民健康保険、老人保健、後期高齢者医療、介護保険、港湾施設事業、簡易水道事業の特別会計および企業会計（水道、病院）を除いた会計のことです。

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

(単位：千円)

区分	職員数 (A)	給与			計(B)	1人当たり 給与費(B/A)
		給料	職員手当	期末勤勉手当		
平成22年度	524 人	2,063,476	266,588	720,998	3,051,062	5,823

職員手当には、退職手当は含んでいません。また、職員数は平成23年4月1日現在の普通会計に属する人数です。

(3) 職員の平均給料月額及び平均年齢の状況

区分	平成22年4月1日現在		平成23年4月1日現在	
	平均給料月額	平均年齢	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	340,564 円	44.0 歳	332,641 円	43.1 歳
消防職	308,036 円	38.7 歳	309,871 円	38.8 歳
技能労務職	350,922 円	50.3 歳	351,189 円	50.8 歳
高校教育職	407,275 円	47.3 歳	395,906 円	46.0 歳

(4) ラスパイレス指数の推移(各年4月1日現在)

年度	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
指数	98.1	99.4	99.6	100.1	99.3	98.8	98.3

ラスパイレス指数とは、一般行政職における国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数です。

(5) 職員の初任給の状況(平成23年4月1日現在)

区分	初任給	2年後の給料	
一般行政職	大学卒	172,200 円	185,800 円
	高校卒	140,100 円	149,800 円
消防職	大学卒	179,000 円	197,200 円
	高校卒	158,100 円	172,000 円
高校教育職	大学卒	199,700 円	214,000 円

(6) 職員の経験年数別、学歴別平均給料月額状況

区分		平成22年4月			平成23年4月		
		経験年数10年平均給料月額	経験年数15年平均給料月額	経験年数20年平均給料月額	経験年数10年平均給料月額	経験年数15年平均給料月額	経験年数20年平均給料月額
一般行政職	大学卒	257,100 円	312,614 円	361,017 円	271,006 円	316,570 円	364,050 円
	高校卒	該当者なし	281,850 円	該当者なし	該当者なし	該当者なし	321,900 円
消防職	大学卒	262,100 円	該当者なし	該当者なし	268,200 円	該当者なし	該当者なし
	高校卒	225,600 円	277,400 円	321,200 円	該当者なし	266,100 円	332,300 円
技能労務職	中学卒	該当者なし	該当者なし	303,350 円	該当者なし	該当者なし	304,200 円
高校教育職	大学卒	該当者なし	345,176 円	該当者なし	該当者なし	361,192 円	該当者なし

各職種における学歴区分は、給料決定上の学歴であり、実際の学歴とは異なります。

(7) 一般行政職の級別職員数の状況

平成22年4月1日現在

区分	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級	計
標準的な職務内容	部長	次長	課長	課長補佐 係長 主査	係長 主査	主事 技師	主事 技師	
職員数(人)	7	0	36	133	63	23	24	286
構成比(%)	2.4	0.0	12.6	46.5	22.0	8.0	8.4	100

構成比(%)は四捨五入しているため、合計と一致しません。

平成23年4月1日現在

区分	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級	計
標準的な職務内容	部長	次長	課長	課長補佐 係長 主査	係長 主査	主事 技師	主事 技師	
職員数(人)	6	1	36	115	69	19	29	275
構成比(%)	2.2	0.4	13.1	41.8	25.1	6.9	10.5	100

(8) 職員手当の状況

区分	支給割合	6月期	12月期	計
	期末手当 勤勉手当 (平成23年度)	期末手当	1.225 月分 (0.650)	1.375 月分 (0.800)
勤勉手当		0.675 月分 (0.325)	0.675 月分 (0.325)	1.35 月分 (0.65)
	計	1.90 月分 (0.975)	2.05 月分 (1.125)	3.95 月分 (2.10)

職制上の段階、職務の級等による加算措置 有

()内は、再任用職員に係る支給割合です。

区分	海南市		国		
	自己都合	勸奨・定年	自己都合	勸奨・定年	
退職手当 (平成22年 4月1日現在)	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分	23.50 月分	30.55 月分
	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分	33.50 月分	41.34 月分
	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分	47.50 月分	59.28 月分
	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分	59.28 月分	59.28 月分
	退職時特別昇給	なし		なし	
	その他の加算措置	定年前早期退職者特例措置 (2%~20%加算)		定年前早期退職者特例措置 (2%~20%加算)	
	退職手当の調整額	在職した職務の級に応じた定額 (0円~33,500円)の60月分		在職した職務の級に応じた定額 (0円~79,200円)の60月分	
	1人当たり平均支給額	406 千円	24,751 千円	-	

地域手当 (平成23年 4月1日現在)	区分	一般行政職等	高校教育職員
	支給率	海南市内	海南市内
	支給対象職員数	— %	— %
	国の制度	0 人	0 人
		非支給地	非支給地

特殊勤務手当 (平成22年度) (公営企業会計 に属する職員を 除く)	区分		全職種
	職員全体に占める手当支給職員の割合		25.0 %
	支給対象職員1人当たり平均支給年額		57,473 円
	代表的な手当 の名称	支給額の多い手当	清掃業務手当、夜間消防業務手当、 教員特殊業務手当、緊急自動車機関員手当
多くの職員に支給されている手当		夜間消防業務手当、清掃業務手当、 救急業務手当、緊急自動車機関員手当、 教員特殊業務手当	

時間外勤務手当 (公営企業会計に属 する職員を除く)	区分		海南市
	平成21年度	支給総額	69,847 千円
		職員1人当たり支給年額	127 千円
	平成22年度	支給総額	76,339 千円
職員1人当たり支給年額		146 千円	

扶養手当 (平成23年 4月1日現在)	区分	配偶者	配偶者以外の扶 養親族	配偶者のいな い職員の扶養 親族のうち1 人目	16歳から22歳 までの子の加 算
	海南市	13,000 円	6,500 円	11,000 円	5,000 円
	国	同じ			

住居手当 (平成23年 4月1日現在)	支給要件	住居を借り受け月額12,000 円を超える家賃を支払って いる職員	自宅を所有している職員 (※平成25年度廃止)	
			新築、購入後5年間	新築、購入後5年以降
	海南市	家賃に応じて、 最高 27,000 円	3,000 円	2,000 円
	国	同じ	—	—

通勤手当 (平成23年 4月1日現在)	支給要件	片道の通勤距離が2Km以上で、交通機関を利用し、又 は交通用具を使用している職員	
		交通機関利用者	交通用具使用者
	海南市	最高支給限度額 55,000 円	最高支給限度額 26,000 円
	国	同じ	最高支給限度額 24,500 円

(9) 特別職の報酬等の状況 (平成23年4月1日現在)

区分	給料		報酬		
	市長	副市長	議長	副議長	議員
月額	890,000 円	745,000 円	540,000 円	480,000 円	440,000 円
期末手当 支給割合	6 月期	1.90 月分	12 月期	2.05 月分	

3. 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

(1) 勤務時間 (平成23年4月1日現在)

一般職の標準的な勤務時間

1日の正規の勤務時間	7.75 時間	休憩時間	12時00分 ~ 13時00分
1週間の正規の勤務時間	38.75 時間		
開始時刻	8時30分	終了時刻	17時15分

(2) 年次有給休暇の取得状況 (各年、1月1日～12月31日)

区分	総付与日数 (A)	総取得日数 (B)	全対象職員数 (C)	平均取得日数 (B)/(C)	消化率 (B)/(A)
平成20年	30,004.0 日	5,564.6 日	778 人	7.2 日	18.5 %
平成21年	28,554.0 日	5,255.0 日	744 人	7.1 日	18.4 %
平成22年	26,860.0 日	4,954.7 日	701 人	7.1 日	18.4 %
平成23年	26,131.0 日	4,751.5 日	689 人	6.9 日	18.2 %

(3) 特別休暇の種類 (平成23年4月1日現在)

公民権行使	必要と認められる期間
証人、参考人等出頭	必要と認められる期間
骨髄移植	必要と認められる期間
ボランティア	1 暦年 5 日以内
職員の結婚	8 日以内
生理	必要と認められる期間
産前	出産予定日前 6 週間以内から出産日まで
産後	出産日の翌日から 8 週間
妊娠中、産後の保健指導、健康診査	妊娠期間に応じ必要と認められる期間、産後 1 年間に 1 回必要と認められる期間
育児時間	1 日 2 回各 30 分以内
妻の出産	2 日以内
親族看護	1 暦年を通じ 30 日以内
子の看護	1 暦年 5 日以内
短期の介護	1 暦年 5 日以内
夏季	5 日以内
感染症	必要と認められる期間
非常災害による交通遮断	必要と認められる期間
交通機関の事故等による通勤困難	必要と認められる期間
天災地変による住居滅失	30 日以内で必要と認められる期間
配偶者、一親等親族の祭日	慣習上最小限度必要と認められる期間
親族の死亡	1 日～7 日

4. 職員の分限処分及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分の状況(平成22年度)

区分	降任	免職	休職	降給	合計
勤務成績が良くない場合	0 人	0 人			0 人
心身の故障の場合	0 人	0 人	9 人		9 人
職に必要な適格性を欠く場合	0 人	0 人			0 人
職制、定数の改廃、予算の減少により廃職、過員を生じた場合	0 人	0 人			0 人
刑事事件に関し起訴された場合			0 人		0 人
条例で定める事由による場合	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
合計	0 人	0 人	9 人	0 人	9 人

(2) 懲戒処分の状況(平成22年度)

区分	戒告	減給	停職	免職	合計
法令に違反した場合	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
職務上の義務に違反し又は職務を怠った場合	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
合計	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

5. 職員のサービスの状況

(1) 育児休業及び部分休業の取得者数(平成22年度)

性別等	育児休業 取得者数	部分休業 取得者数	平成22年度中に新たに育児休業が 取得可能となった職員			育休取得率
			育児休業 対象者数	うち育児休業 取得者数	うち部分休業 取得者数	
男性職員	0 人	0 人	22 人	0 人	0 人	0.0 %
女性職員	28 人	0 人	12 人	12 人	0 人	100.0 %
計	28 人	0 人	34 人	12 人	0 人	35.3 %

6. 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

(1) 職員の研修の実施状況(平成22年度)

研修名	修了者数	研修名	修了者数
市町村アカデミー	3人	先進都市視察研修	8人
新規採用職員研修(和歌山県市町村職員研修協議会)	5人	一般職員基礎研修	5人
一般職員一次研修	2人	一般職員二次研修	16人
監督者一次研修	6人	監督者二次研修	1人
研修協議会専門研修	8人	研修協議会パソコン研修	10人
新規採用職員研修(海南省)	11人	認知症サポーター講座	180人
かいなん男女共同参画セミナー	28人	情報セキュリティー研修	511人
かいなん人権セミナー	34人	応急手当講習会	20人
人事評価研修	44人	接遇力向上研修	65人
その他の研修	24人		

(2) 職員の勤務成績の評定の状況

評定の種類	基準日	対象期間
定期評定	毎年10月1日	前年の10月1日から当該年の9月30日まで

7. 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 健康診断の状況(平成22年度)

区分	受診者数
定期健康診断	110人
深夜業務従事者健康診断	78人
特定業務従事者健康診断	15人
電離放射線健康診断(1回目)	4人
電離放射線健康診断(2回目)	4人
深夜業務従事者及び滅菌作業従事者健康診断	53人

上記のほか、市町村職員共済組合の助成による巡回検診・人間ドック・脳ドックを595人が受診しました。

(2) 職員互助会の事業内容(平成22年度)

会員数	724人
掛金	3,457千円
掛金率	給料月額1,000分の1.2
補助金	2,208千円
実施事業	福利厚生事業(慶弔費、保養施設契約等)

市から互助会への補助金については、随時見直しを行い、平成16年度(旧海南省)の職員1人当たり1万円から、平成21年度には3千円まで減額しています。また、福利厚生事業のうち、公共的団体主催の演劇等の鑑賞費用助成、体育事業については凍結し、その他の互助会事業全般についても見直しを行っています。

(3) 公務災害、通勤災害の状況

区分	公務災害		通勤災害		合計	
	申請	認定	申請	認定	申請	認定
平成21年度	0件	0件	0件	0件	0件	0件
平成22年度	2件	2件	1件	1件	3件	3件

II 公平委員会の業務の状況

1. 勤務条件に関する措置の要求の状況

平成22年度中に新たに要求のあった事案・・・0件

2. 不利益処分に関する不服申立ての状況

平成22年度中に新たに申立てのあった事案・・・0件